

共育（きょういく）を目指して

本校は、昭和43年、下呂市に整肢学園として開設されました。その後移転、改名を経て、46年が経過し、4年後には50周年の節目を迎えます。そこで今年度から50周年記念行事開催に向けて卒業生やPTA、学校運営に携わっていただいている方にご協力を仰ぎ、少しずつ準備を進めて参ります。

当校は「肢体不自由」のある児童生徒への指導を行う「コア・スクール」として、一人一人の肢体不自由の状態や学びに応じて、4領域（「運動・動作」「教材・教具」「摂食」「情報」）を設けて研修をしています。外部の専門家（作業療法士や理学療法士等）からも指導・助言を受けて教育活動を行っています。この学びを県内の特別支援学校や肢体不自由のある小学校や中学校、高等学校で学ぶ子どもや教職員への支援となるような情報発信を積極的に行います。

本校の教育目標は「明るく、元気に、生き生きと」です。この目標は、個々に応じた「生きる力」を育み、自立と社会参加を目指すものです。教育活動全体を通して、「あいさつをする」「毎日元気に登校する」「五感を使って楽しく活動する」「いろいろな人と繋がる」ことを大切にし、児童生徒の笑顔あふれる学校となるよう、教職員が一丸となり努力して参ります。

また、「共育」の実現も目指します。この「共育」とは、「親・教師・学校など、教育権をもつ主体だけでなく多様な立場や領域の人・組織が連携をして教育を担うこと、あるいは教育・養育・指導を行う側と受ける側が共に学び成長すること」と言われます。学校がその「共育の場」となるためには、家庭との連携を深め、共に歩みを進めることが「鍵」となります。共育の実現のためにも、引き続き、当校へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

岐阜希望が丘特別支援学校
校長 吉田 孝弘